松阪市立歴史民俗資料館の基本的考え方

松坂城跡の立地特性を活かし、松坂城ガイダンス施設へと転換

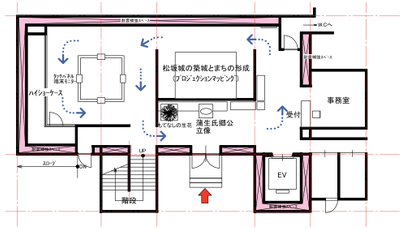
松阪のまちの歴史的起点を築いた蒲生氏郷公。松坂開府の“ものがたり”が、古城の魅力を際立てます！

城下の発展を見据え、四十五の森に城を築き、この地を「松坂」と名付けた蒲生氏郷公。氏郷公が拓いた城下が原形となって、今日に連なる松阪のまちがかたちづくられています。また、氏郷公による近江（日野）商人の招聘などで商都としての性格が備わったのも大きな功績と考えられます。徳川の時代となり、紀州藩にあずけられた後に、天守は風害によって喪失したままとなりますが、商都としての隆盛期を迎え、多くの豪商を排出します。松阪の歴史的起点である松坂城築城と松坂開府の全貌を“ものがたる”ことで、今日へと連なる松阪の歴史への思いを深められるものとします。

※既存資料の収蔵については、松阪市文化財センター等への移動を検討します。

松坂城ガイダンス施設の展示イメージ

1F 松坂城趾ギャラリー 松坂城ガイダンスフロア



耐震補強箇所を想定
1F 事務室を移動、EV を設置します。

エントランス
威風堂々。蒲生氏郷公が、格調高く、お客様をお迎えします！

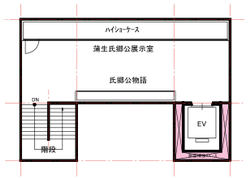
「松坂開府」ものがたり
松阪の地形模型に映し出される城下形成のプロセス。今日に連なる土地の記憶をたどります！

「松坂城」ものがたり
松坂城の大型復元模型と ICT を駆使して築城や城の全貌を解き明かします！
（※ICT: 情報通信技術の略）

最新のプロジェクション・マッピング技術を駆使し、松阪の地形をベースにどのように城下が形成され、今日に至っているのか、わかりやすく表現します。

大型の松坂城模型を前に、手元に置かれたタッチパネルモニターで、築城の技術や天守・御殿・櫓・城門などの建築物群の概要（役割や想定される内部空間の様子）を紹介します。

2F 蒲生氏郷公顕彰フロア



「蒲生氏郷公」ものがたり
松坂開府の祖にして、武芸に秀でた戦国屈指の傑物、蒲生氏郷公ー。その生涯のドラマを描き出します！

蒲生氏郷公の生涯を幼年期から晩期の４つの時代に区分し、そのひとつ一つの時代を実物資料・模型・映像などを組み合わせてストーリ立てたドラマにして表す複合演出型展示を展開します。

企画展示
武家の「武」と「芸」をテーマに、多彩な企画展を開催！

氏郷と井戸茶碗展イメージ

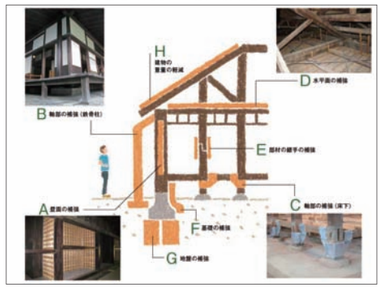
氏郷公ゆかりの鯰尾兜と甲冑

建物の耐震補強・修復の考え方

建物の耐震補強及び修復の実施にあたっては、極力建物外観への影響を低減します。
現状の資料館展示室の内装を撤去して、建物壁面との間に耐震補強用スペースを確保し、新たな内装壁面を構築します。

【ハウスインハウスの考え方の導入】
基礎部補強及び新設エレベータの導入では、土地に影響しない工法を採用します。
なお、具体的な検討は、文化庁及び関係機関との協議によります。

工法・技術例
（外観、土地に影響を与えない工法・技術を採用します）



建物の耐震補強・修復の実施工程（例）

耐震診断・修復計画 → 耐震設計・修復設計 → 工事実施

（現地調査の実施）
（国庫補助申請手続き）- - - - - - - - - 保存・活用にかかる設計監理費の１／２補助 - - - - - - - - - - >
文化庁及び関係機関との協議実施 ———————————>

※展示室の内装変更、耐震補強・修復の実施について、計画段階から文化庁及び関係機関との協議を行います。現状変更に相当する場合は、文化庁への届出が必要になります。
※耐震補強・修復方法（工法）で、土地への影響を及ぼす行為は原則認められない（国指定史跡内の為）ことを前提に計画・設計します。

お城歩きサポートツールの提案

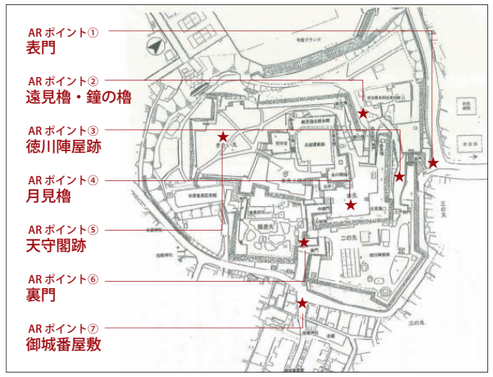
AR 技術が可能にする拡張現実世界を体感！

※AR 映像：現実を捉えた映像上にコンピュータ・グラフィックスによってつくりだされた映像を合成して描き出された映像世界のこと。

活用①【観光客】古城・松坂城のバーチャル体験

お城歩きの楽しさが倍増します。

今は、石垣のみを残す天守台にタブレットをかざすと、タブレット上に喪失した天守の姿が合成され往時の姿がよみがえります！
城跡からのまちの眺望も、タブレットをかざすと、そこに江戸時代の松坂のまち並みがよみがえります。



活用②【市民の皆様】松坂城下町をバーチャル散策

松坂城下町を歩きます。今はなきかつての景観を再現する VR（バーチャルリアリティ）ならではの鑑賞体験を通じて、実際の散策への興味を喚起します。また、市民における映像教材や歴史資料としてご活用いただけます。教育の場でまちなみの景観を保全する意味の理解促進に活用したり、松阪の歴史を調べる資料として生涯学習などにも活用できます。

VR 作品『熊本城 不落の名城を読み解く』　建築監修：平井聖（昭和女子大学特任教授）、北野隆（熊本大学名誉教授）、伊東龍一（熊本大学教授）　シナリオ監修：吉丸良治（永青文庫常務理事）　協力：熊本市、本妙寺、永青文庫、熊本県立美術館　製作：熊本城観光交流サービス株式会社　制作・著作：凸版印刷株式会社

活用③【観光客】散策コースをＶＲの松坂城下町で事前体験

散策コースを VR の中の松坂城下町で事前体験します。今も残る史跡や老舗のお店などは、VR の中でお知らせします。松阪の歴史が感じられるとともに、散策の際の目印にもなります。コースを選んだら、今度は現在の松阪の散策に出発です。バーチャル散策のあとに自分の足で五感を使って歩く、新しい観光スタイルをご提供します。